

かみすげたささのおか

令和5年5月31日
上菅田笹の丘小学校
学校だより 6月号



上菅田笹の丘小学校 学校教育目標
自分大好き 仲間大好き
心かがやく上菅田笹の丘小学校



「顔の見える関係」

副校長 徳永 久美子

新緑がみずみずしく、日差しも日に日に強く感じられる季節になりました。日による寒暖差があり、体調を崩しやすい季節でもありますので、子どもたちには「早寝・早起き・朝ごはん」で生活リズムを整えて、健康に留意し過ごしてほしいと思います。

さて、5月18日は、統合して初めて全校一斉で行う授業参観・懇談会でした。突然の夏日で、保護者の方も学校までの行き来が大変だったことと思います。授業参観では、授業や普段の子どもの様子を見ていただき、懇談会では、学年や学級の様子や教育方針を伝えたり、それぞれの自己紹介から保護者同士や先生との懇親につなげたりしました。また、子どもたちにとっては、授業を保護者の方が見てくれることが励みになり、いつもより嬉しそうにしていたり、張り切っていたりする姿が多く見られました。保護者の方のご協力のおかげで、スムーズに授業参観・懇談会が進められました。ありがとうございました。

今回の授業参観・懇談会を通し、改めて学校職員と保護者の方、保護者同士の関係作りについて考えました。小学校時代は、子どもはまだ身近な大人に依存していますし、感情の動きが豊かであるのに十分に言語化ができません。子どもは成長の過程で、笑顔になることをいっぱいしてくれますが、時には眉間にしわがよるようなこともします。子どもの思いをなるべく言語化させ、大人がよい問い（声かけ）をすることで自立・自律が促されていきます。しかし、なかなかよい問いを見つけられないことが通常です。だからこそ、大人である学校職員と保護者、保護者同士の顔の見える関係が重要になってきます。互いの願いは「これからよりよい成長を遂げ、その子にとって人生がよいものになること」。学校と保護者、保護者同士がまずは「知り合い」となり、お互いを尊重し合いながら、子どもの成長をともに喜ぶことができれば、素敵だと思えます。そして、そんな関係になるためには、大人も子どもと共に成長をしていかないといけないので、機会あるごとに自分に発破を掛けています。

子どもの活動についても、今年度はできることが広がります。頭をくっつけて同じものをのぞき込んだり、頬や口の動きを含めた表情で気持ちを表現したりされたりという、子どもらしい姿に対し、制限をかけることがほとんどなくなります。小学校時代は、人や自然と触れ合うこと、一つ一つの経験を素直に受け止め心を動かします。それを価値づけ、表現できるように日々の教育活動を行っています。これから各学年、体験学習や修学旅行、校外学習が予定されています。諸感覚をフルに使った学習（経験）を多くできるように学校でも準備を進めています。子どもの成長の過程での出来事について、学校と保護者と共に「大変だ!」を「だけど楽しい!」にできるよう、これからも努力をして参ります。